

# 臨床推論演習Ⅲ

科目責任者 鈴木 圭 輔  
学年・学期 4 学年・後期

## I. 前 文

4 学年の前期までに臨床科目の講義は全て終了している。後期はCBT対策や5 学年から開始される臨床実習の準備を行い、卒業試験、そして国家試験合格に向けて着実に力をつけていく時期である。“臨床参加型”実習を実現させるために、臨床推論演習Ⅲでは医学教育モデルコアカリキュラムの“臨床推論”に沿って、各分野における症状や病態について、病歴、診察、検査から鑑別診断を行って正確な診断につなげることを目標とする。各授業には実際の症例問題を例にして、分野によってはさらなる理解を深めるため統合型講義（基礎医学と臨床医学）も行う。学生が事前に予習がしやすいように講義計画表には関連する領域の実際的な国家試験の問題番号を記載してある。この演習は5 学年から始まる臨床実習や6 学年の学習にも極めて有用なはずである。

## II. 担当教員

内科学（神経）	（鈴木 圭 輔）
内科学（血液・腫瘍）	（三 谷 絹 子）
内科学（腎臓・高血圧）	（石 光 俊 彦）
内科学（内分泌代謝）	（麻 生 好 正）
内科学（リウマチ・膠原病）	（倉 沢 和 宏）
精神神経医学	（下 田 和 孝）
放射線医学	（楫 靖）
整形外科	（種 市 洋）
泌尿器科学	（釜 井 隆 男）
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	（春 名 眞 一）
産科婦人科学	（三 橋 暁）
救急医学	（小 野 一 之）
リハビリテーション科学	（美津島 隆）
病理診断学	（石 田 和 之）
総合診療医学	（志 水 太 郎）
生理学	（神 作 憲 司）
微生物学	（増 田 道 明）
薬理学	（藤 田 朋 恵）
熱帯病寄生虫病学	（川 合 覚）

## III. 一般学習目標

- (1) 重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し、解決する能力を得る。
- (2) 臨床実習前に臨床推論演習を行う事により、臨床実習の効果を高める。
- (3) 思考能力を高め、6 学年での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

## IV. 学修の到達目標

- (1) 各コマで与えられた症状や病態について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- (2) 臨床実習に応用出来るように、理解の幅を広げる。
- (3) 必須な知識の獲得のみならず、6 学年までこれらの能力を保持出来るようにする。

V. 授業計画及び方法 \* ( )内はアクティブラーニングの番号と種類

(1:反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2:ディスカッション 3:グループワーク 4:実習 5:プレゼンテーション 6:その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	10	21	木	1	2-1) 発熱	熱帯病寄生虫病学 川 合 覚	1
2		21	木	2	2-26) 貧血	内科学(血液・腫瘍) 佐々木 光	1
3		21	木	3	2-27) リンパ節腫脹	内科学(血液・腫瘍) 市 川 幹	1
4		21	木	4	2-27) リンパ節腫脹	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 深 美 悟	1
5		21	木	5	2-28) 尿量・排尿の異常	内科学(内分泌代謝) 飯 嶋 寿 江	1
6		22	金	1	2-28) 尿量・排尿の異常	泌尿器科学 木 島 敏 樹	1
7		22	金	2	2-29) 血尿・タンパク尿	内科学(腎臓・高血圧) 里 中 弘 志	1
8		22	金	3	2-29) 血尿・タンパク尿	泌尿器科学 別 納 弘 法	1
9		22	金	4	2-29) 血尿・タンパク尿	病理診断学 金 子 有 子	1
10		22	金	5	2-29) 血尿・タンパク尿 2-33) 頭痛	薬 理 学 藤 田 朋 恵	1
11		25	月	1	2-30) 月経異常	産科婦人科学 坂 本 尚 徳	1
12		25	月	2	2-32) 物忘れ	生 理 学 野 元 謙 作	1
13		25	月	3	2-32) 物忘れ	精神神経医学 岡 安 寛 明	1
14		25	月	4	2-31) 不安・抑うつ	精神神経医学 菅 原 典 夫	1
15		25	月	5	2-33) 頭痛	内科学(神経) 鈴 木 圭 輔	1
16		25	月	6	2-33) 頭痛	総合診療医学 鈴 木 有 大	1
17		26	火	1	2-33) 頭痛	微生物学 増 田 道 明	1
18		26	火	2	2-34) 運動麻痺・筋力低下	内科学(神経) 鈴 木 圭 輔	1
19		26	火	3	2-34) 運動麻痺・筋力低下	リハビリテーション科学 入 澤 寛	1
20		26	火	4	2-34) 運動麻痺・筋力低下	生 理 学 福 島 央 之	1
21		26	火	5	2-35) 腰背部痛	放射線医学 三 須 陽 介	1
22		27	水	1	2-35) 腰背部痛	整形外科学 稲 見 聡	1
23		27	水	2	2-36) 関節痛・関節腫脹	内科学(リウマチ・膠原病) 新 井 聡 子	1
24		27	水	3	2-36) 関節痛・関節腫脹	整形外科学 富 沢 一 生	1
25		27	水	4	2-37) 外傷・熱傷	整形外科学 柴 佳 奈 子	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
26	10	27	水	5	2-37) 外傷・熱傷	救 急 医 学 小 野 一 之	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験を行い、評価する。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

- (1) 今までに各科で指定した教科書および推薦図書。
- (2) Question Bank, Approach, 112, 113, 114回医師国家試験問題解説書。
- (3) 国試112～114, 医学書院
- (4) イヤーノート, メディックメディア

#### VIII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントを取る。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポートなど）については，提出され次第随時評価しフィードバックする。

## XI. 求められる事前学習，事後学習 \*（ ）内は所要時間の目安

求められる事前学習：各授業の症例問題を前もって必ず取り組むこと。（20分）

求められる事後学習：各授業の症例問題について配布資料で復習する。（15分）

## XII. コアカリ記号・番号

2-1) 発熱，2-26) 貧血，2-27) リンパ節腫脹，2-28) 尿量・排尿の異常，2-29) 血尿・タンパク尿

2-30) 月経異常，2-31) 不安・抑うつ，2-32) 物忘れ，2-33) 頭痛，2-34) 運動麻痺・筋力低下

2-35) 腰背部痛，2-36) 関節痛・関節腫脹，2-37) 外傷・熱傷